

平成26年度上期の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
当面する課題について

平成26年7月24日
一般社団法人Jミルク

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

・北海道及び都府県の予測値は、平成 26 年 5 月までの生乳生産量データに基づき、気温や乳牛頭数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 26 年度の気温は、平年並で設定。

表 1：平成 26 年度上期の地域別生乳生産量（見通し）

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	627	96.4%	316	96.0%	311	96.8%
5 月	650	96.9%	333	97.1%	317	96.7%
6 月	620	97.1%	325	97.6%	295	96.7%
7 月	618	97.7%	329	98.8%	289	96.6%
8 月	600	98.8%	321	99.9%	279	97.5%
9 月	580	97.8%	309	99.3%	272	96.2%
第 1 四半期	1,897	96.8%	973	96.9%	924	96.7%
第 2 四半期	1,798	98.1%	958	99.3%	840	96.8%
上期	3,695	97.4%	1,931	98.1%	1,764	96.7%

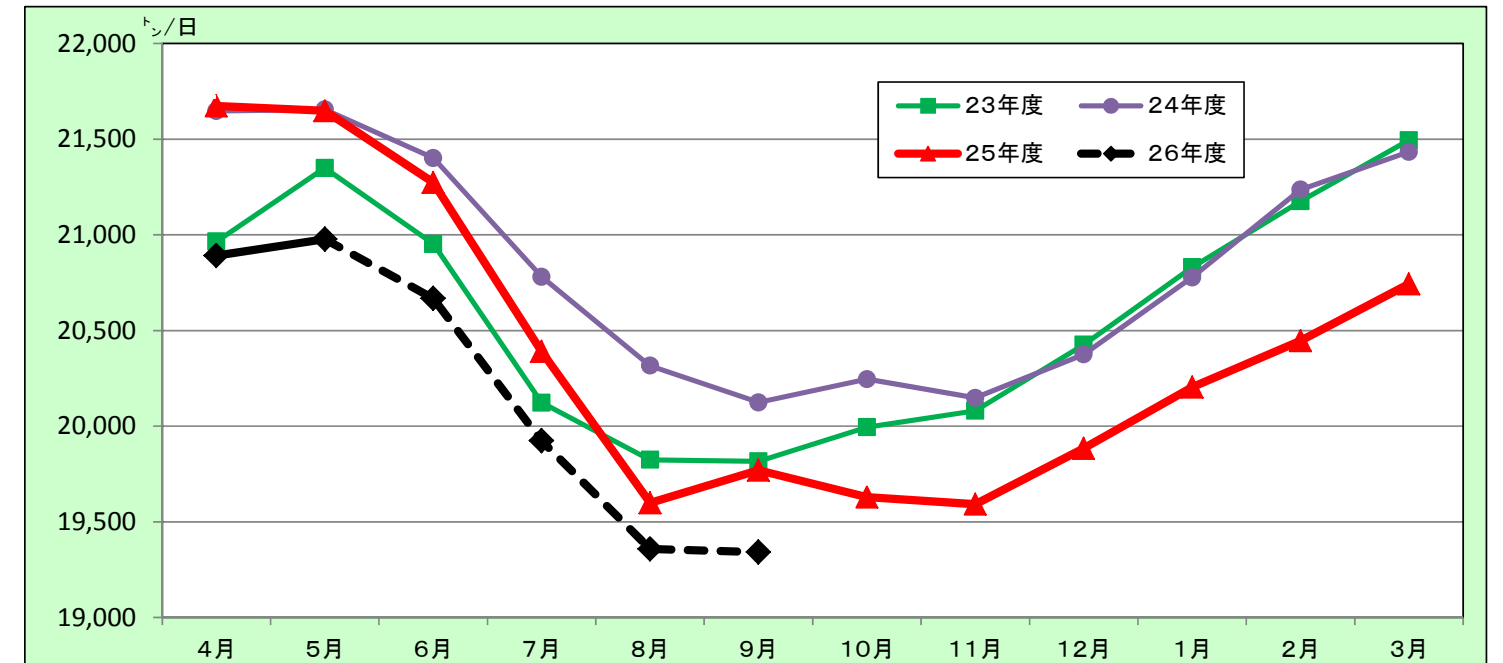
【生乳生産量の見通し】

26 年度上期において、北海道では第 1 四半期は前年を下回り、第 2 四半期についても前年並みもしくはやや下回って推移するものと見込まれる。また、都府県においても前年を下回って推移するものと見込まれる。その結果、全国では、第 1 四半期は前年比 96.8%、第 2 四半期は同 98.1%と見込まれる。

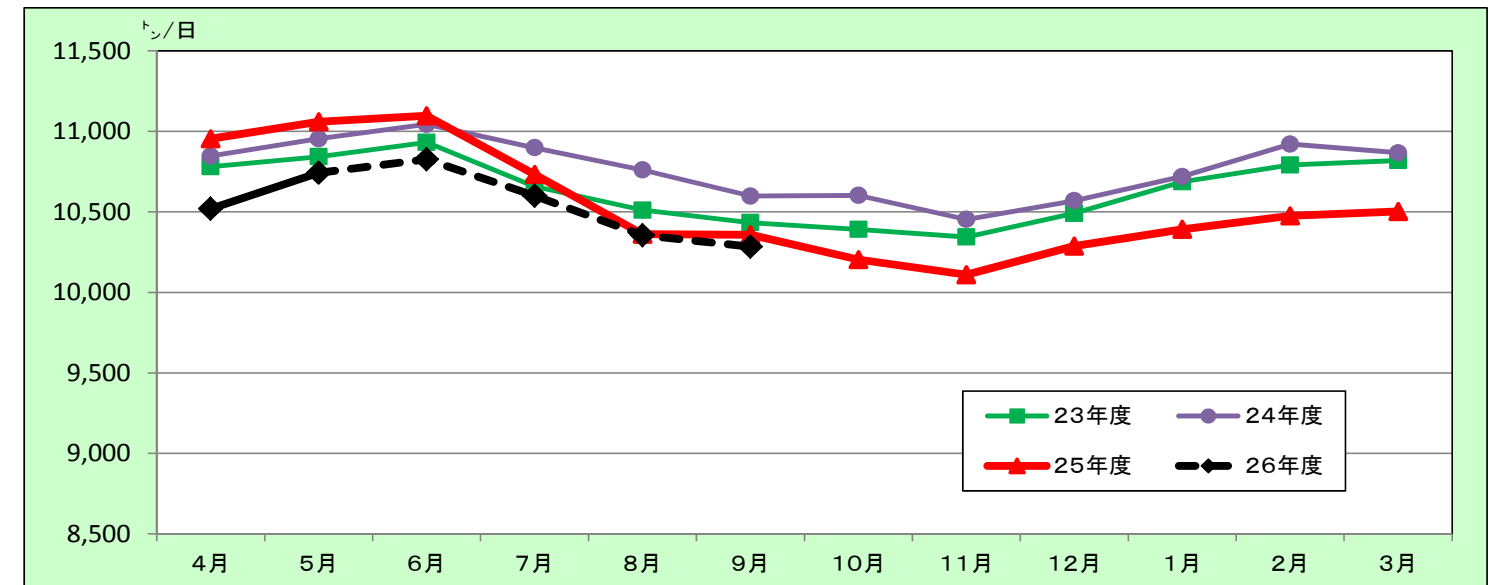
5 月公表時に比べ下振れしており、予測の差異（上期計）は以下の通り。

- 「全 国」：▲6 千 t（前年比▲0.2 ポイント）
- 「北海道」：▲4 千 t（前年比▲0.2 ポイント）
- 「都府県」：▲2 千 t（前年比▲0.1 ポイント）

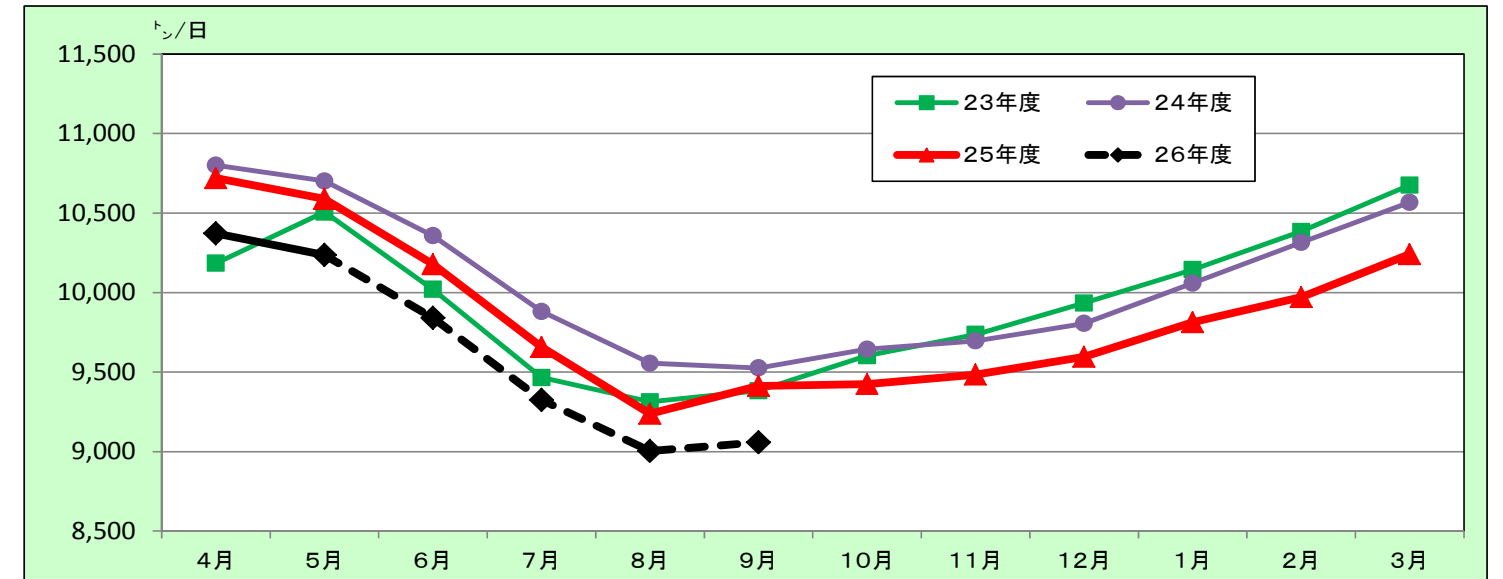
グラフ 1-1：全国の生産量（日均量）



グラフ 1-2：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-3：都府県の生産量（日均量）



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、平成26年5月までの生産量データに基づき、気温や平日日数等を説明変数とした予測モデル（ARIMAモデル）による推計値を基本に算出。なお、平成26年度の気温は、平年並で設定。

表2：平成26年度上期の牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	389	99.0%	243	98.9%	10	92.4%	28	101.3%	108	99.4%	87	96.9%
5月	417	98.4%	261	98.4%	10	97.4%	30	101.1%	117	97.9%	90	99.2%
6月	419	99.4%	261	99.3%	10	101.4%	30	102.1%	119	98.7%	89	101.6%
7月	426	97.8%	257	97.6%	11	100.8%	31	99.8%	127	97.6%	89	101.3%
8月	412	98.8%	239	97.9%	11	103.2%	32	102.4%	130	99.4%	84	99.9%
9月	436	99.6%	269	98.8%	11	100.9%	31	101.9%	126	100.7%	85	101.5%
第1四半期	1,226	98.9%	764	98.9%	30	96.9%	88	101.5%	343	98.6%	266	99.2%
第2四半期	1,275	98.7%	765	98.1%	32	101.6%	94	101.3%	384	99.2%	258	100.9%
上期	2,500	98.8%	1,529	98.5%	62	99.2%	182	101.4%	727	99.0%	524	100.0%

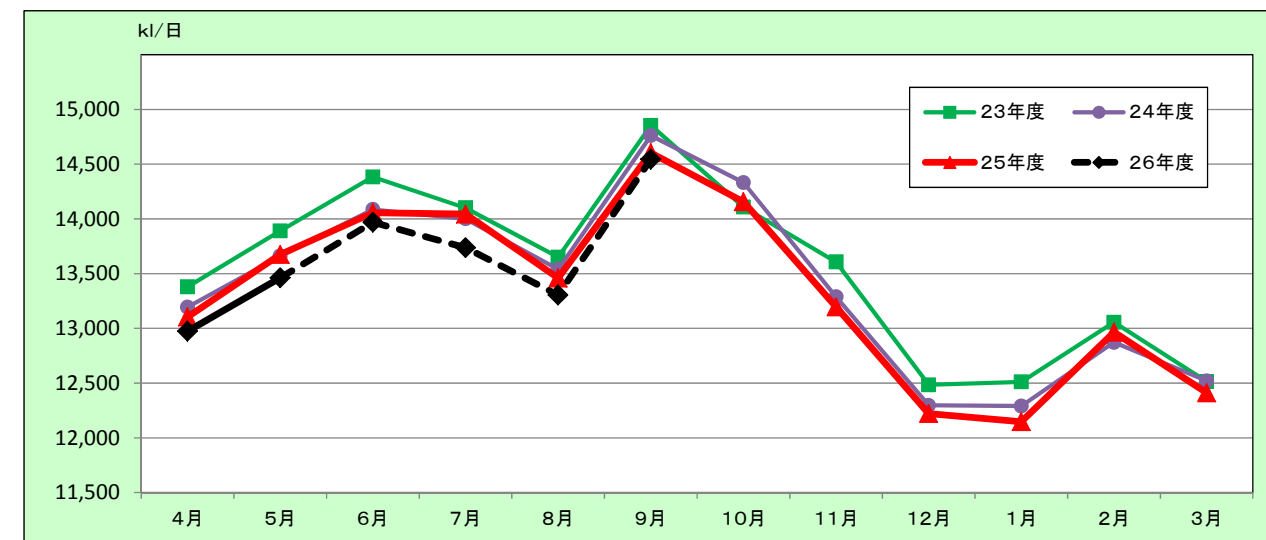
【牛乳等生産量の見通し】

26年度上期は、「牛乳」は前年を下回って推移、「乳飲料」は前年度上期に伸長した反動もあり前年をやや下回る程度で推移するものと見込まれる。「はっ酵乳」は前年並みに推移するものと見込まれる。

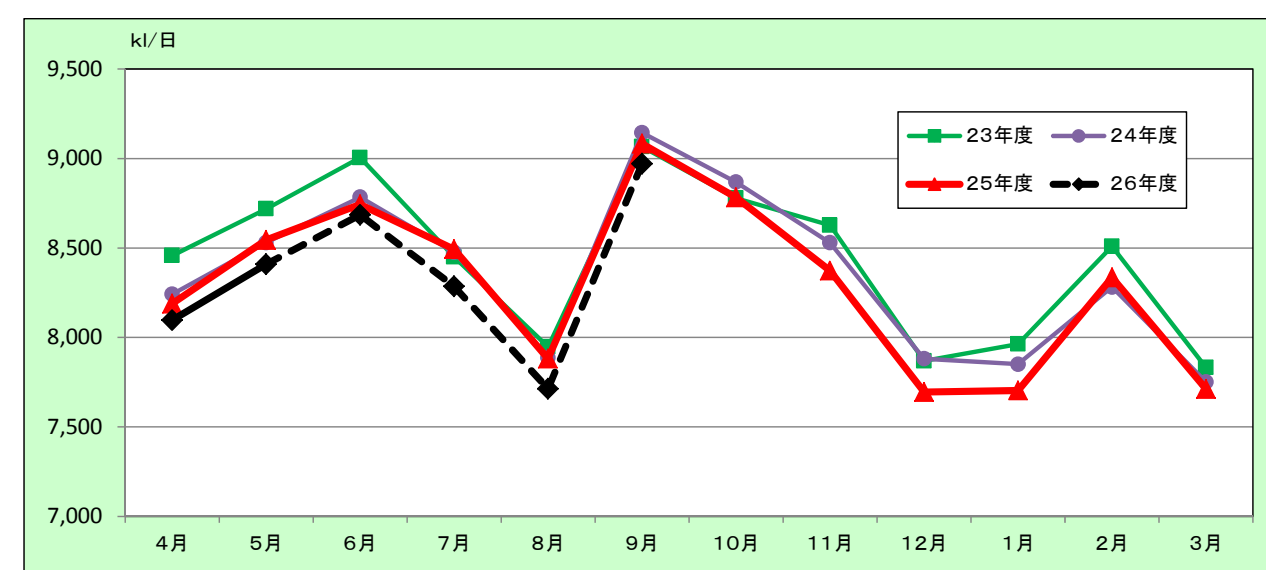
なお、前回5月公表時の予測との差異（上期計）は以下の通り。

「牛乳類」：▲8千k1（前年比▲0.3ポイント） 「牛乳」：▲4千k1（前年比▲0.2ポイント）
 「加工乳」：▲5千k1（前年比▲8.1ポイント） 「成分調整牛乳」：+8千k1（前年比+4.6ポイント）
 「乳飲料」：▲7千k1（前年比▲0.9ポイント） 「はっ酵乳」：▲9千k1（前年比▲1.7ポイント）

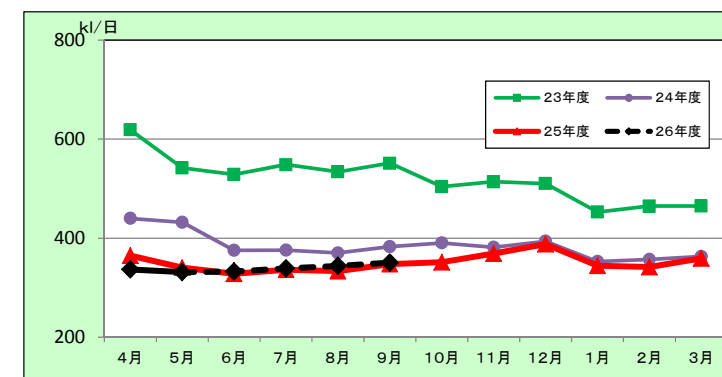
グラフ2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



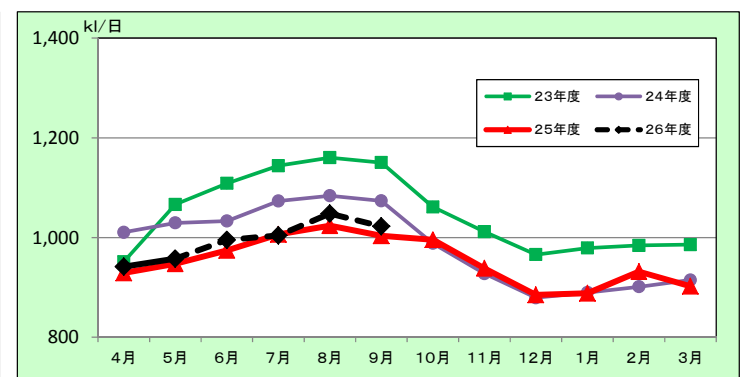
グラフ2-2：牛乳の生産量（日均量）



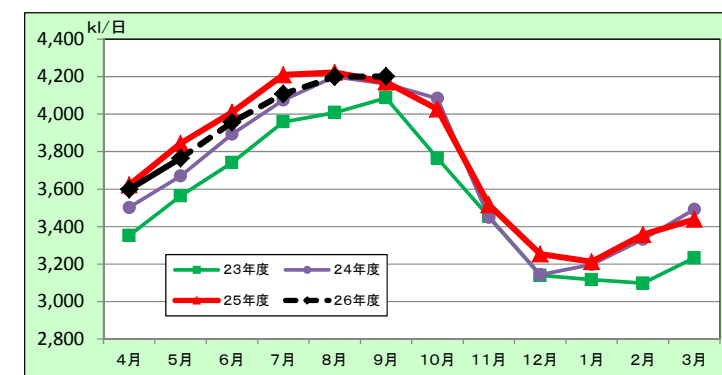
グラフ2-3：加工乳の生産量（日均量）



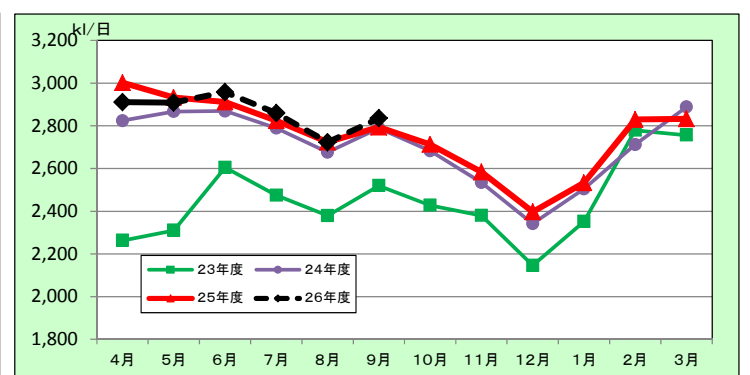
グラフ2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用係数を乗じ算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成26年度上期の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	627	96.4%	5	106.3%	622	96.3%	319	98.4%	303	94.2%
5月	650	96.9%	5	106.5%	645	96.8%	342	98.8%	303	94.7%
6月	620	97.1%	5	97.1%	615	97.1%	345	99.7%	270	94.1%
7月	618	97.7%	5	97.7%	613	97.7%	342	98.0%	271	97.4%
8月	600	98.8%	5	98.7%	596	98.8%	324	98.6%	271	99.0%
9月	580	97.8%	5	97.7%	576	97.8%	351	99.3%	225	95.6%
第1四半期	1,897	96.8%	15	103.3%	1,882	96.8%	1,006	99.0%	876	94.4%
第2四半期	1,798	98.1%	14	98.0%	1,784	98.1%	1,018	98.6%	766	97.4%
上期	3,695	97.4%	29	100.7%	3,667	97.4%	2,024	98.8%	1,642	95.8%

【用途別処理量の見通し】

26年度上期の用途別処理量は、「牛乳等向処理量」が前年をやや下回って推移する中で、生乳供給量がより大きな減少傾向にあることから、「乳製品向処理量」についても前年を下回って推移するものと見込まれる。

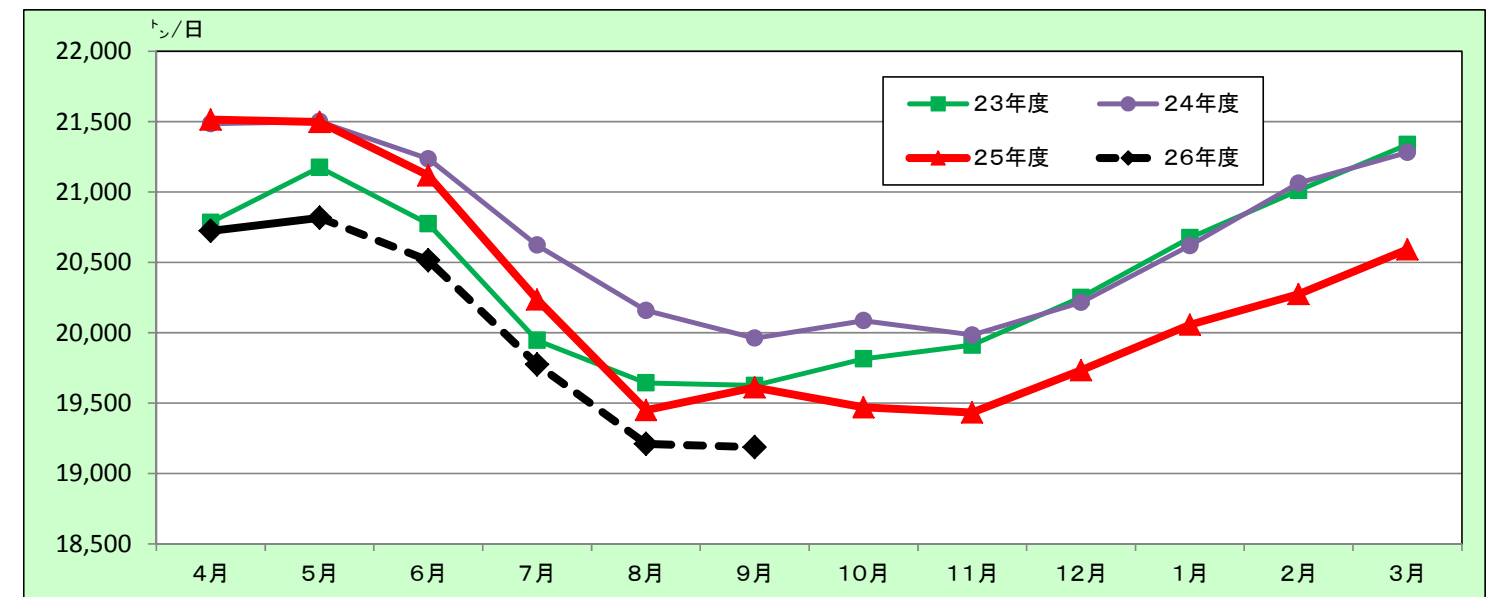
なお、前回5月公表時の予測との差異（上期計）は以下の通り。

「生乳供給量」：▲6千t（前年比▲0.2ポイント）

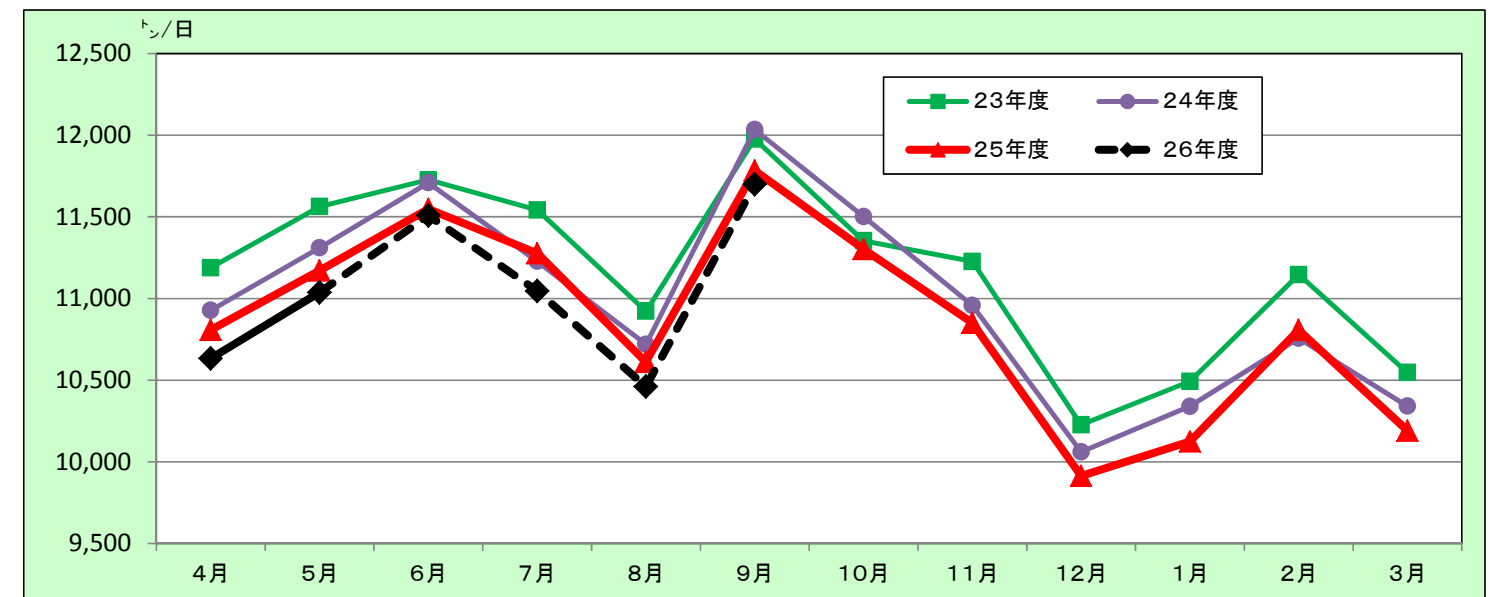
「牛乳等向処理量」：▲1千t（前年比▲0.0ポイント）

「乳製品向処理量」：▲6千t（前年比▲0.3ポイント）

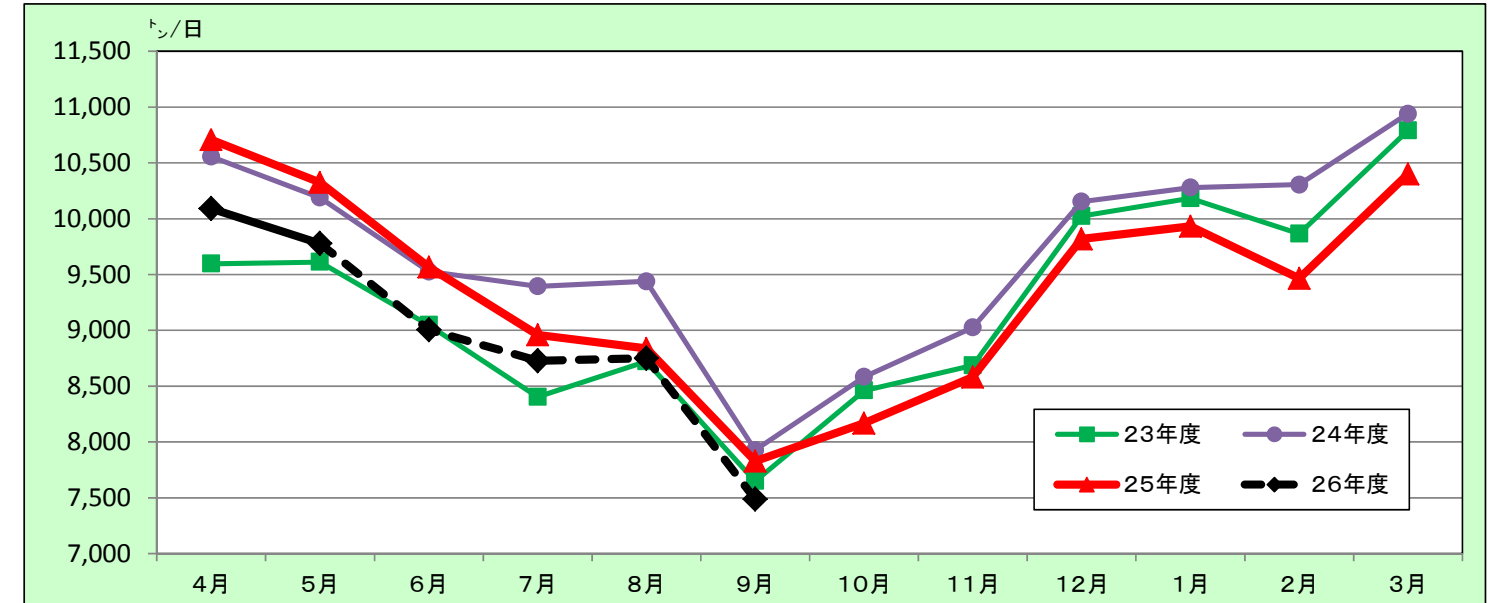
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



4. 都府県の生乳需給の動向

【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「移入量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出し、過去5年間の最低数量や直近の需給状況等を加味して算出。

表4：平成26年度上期 都府県の生乳需給（見通し）

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
4月	309	96.7%	275	97.9%	14	102.0%	20	19	98.1%	0	38	87.8%
5月	315	96.6%	297	98.3%	14	102.1%	4	22	102.2%	0	26	81.8%
6月	293	96.7%	300	99.2%	13	100.0%	-20	34	118.1%		14	86.1%
7月	287	96.6%	295	97.3%	13	100.0%	-21	35	103.1%		14	92.5%
8月	277	97.5%	277	97.8%	14	100.0%	-14	33	103.1%		19	100.1%
9月	269	96.2%	303	98.6%	13	100.0%	-46	54	112.4%		7	94.0%
第1四半期	917	96.7%	872	98.4%	41	101.4%	4	74	107.8%	0	78	85.4%
第2四半期	833	96.8%	874	97.9%	40	100.0%	-81	121	107.0%		40	96.2%
上期	1,750	96.7%	1,746	98.2%	81	100.7%	-77	196	107.3%	0	118	88.8%

【都府県の生乳需給の見通し】

26年度上期においては、都府県における生乳供給量の減少が、牛乳等向処理量の減少を上回って推移すると見込まれることから、北海道からの生乳移入量（道外移出量）は、前年を上回って推移するものと見込まれる。

5. 特定乳製品需給の動向

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、平成26年5月までの消費量データに基づき、代替乳製品の動向等を説明変数とした予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの当月消費量(出回り量)は、「前月末在庫」+「生産量」+「輸入売渡し」-「当月末在庫」で算出。
- ・脱脂粉乳・バターの在庫月数は、前年度の一ヶ月平均消費量をもとに算出。

表5：平成26年度上期 脱脂粉乳の需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	消費量 (出回り量)		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	11.4	82.8%	0.1	11.9	97.6%	-0.4	39.9	3.3	78.2%
5月	10.9	83.7%	1.6	12.7	90.9%	-0.1	39.8	3.3	74.9%
6月	9.4	87.5%	1.2	12.0	107.7%	-1.4	38.4	3.2	72.5%
7月	9.0	93.5%	4.0	13.1	98.0%	-0.1	38.3	3.2	75.5%
8月	9.2	98.0%	1.8	12.1	102.0%	-1.1	37.2	3.1	77.1%
9月	6.4	89.8%	1.2	12.1	105.8%	-4.6	32.7	2.7	74.0%
第1四半期	31.8	84.5%	3.0	36.6	98.1%	-1.8	38.4	3.2	72.5%
第2四半期	24.6	94.1%	7.0	37.3	101.7%	-5.7	32.7	2.7	74.0%
上期	56.4	88.4%	10.0	73.9	99.9%	-7.6	32.7	2.7	74.0%

表6：平成26年度上期 バターの需給（見通し）

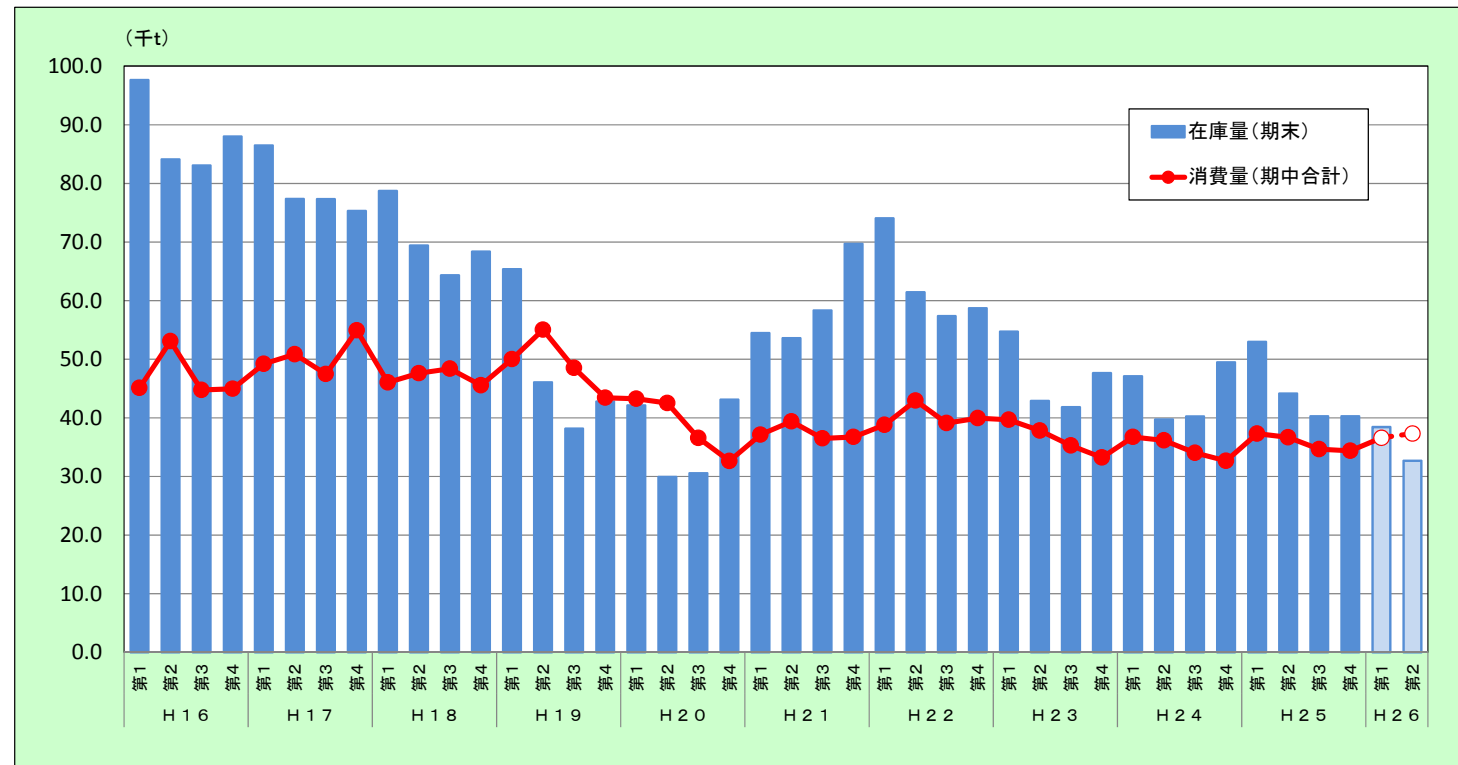
	生産量		輸入 売渡し B	消費量 (出回り量)		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	6.3	90.0%	0.0	6.4	104.4%	-0.1	17.2	2.8	70.8%
5月	5.7	82.4%	0.3	5.3	96.3%	0.7	18.0	2.9	69.6%
6月	5.0	87.5%	1.3	5.2	89.6%	1.0	19.0	3.1	73.9%
7月	4.8	93.5%	0.4	5.3	91.6%	-0.1	18.9	3.1	75.4%
8月	5.0	98.0%	0.4	5.0	88.3%	0.4	19.3	3.1	79.0%
9月	3.2	89.8%	1.5	4.9	98.5%	-0.2	19.1	3.1	83.0%
第1四半期	17.0	86.6%	1.5	16.9	96.9%	1.7	19.0	3.1	73.9%
第2四半期	13.0	94.2%	2.4	15.2	92.6%	0.1	19.1	3.1	83.0%
上期	30.0	89.7%	3.9	32.1	94.8%	1.8	19.1	3.1	83.0%

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター)需給の見通し】

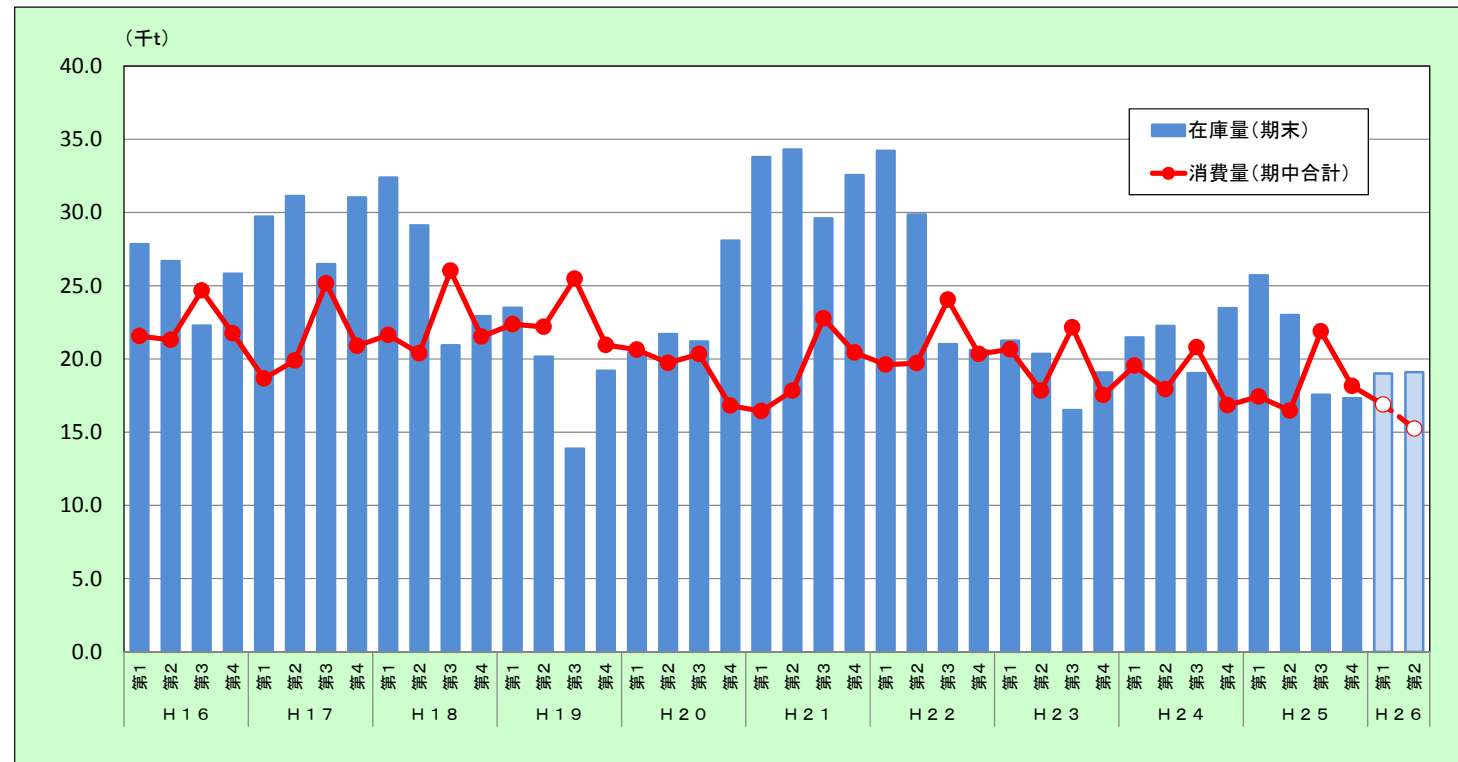
脱脂粉乳は、上期生産量が前年を大きく下回り56.4千t（前年比88.4%）と見込まれる。上期中に、25年度分カレントアクセス残量並びに26年度分カレントアクセス分輸入数量として10.0千tが売り渡される予定となっているが、26年度上期末における在庫量は32.7千t（前年度上期比▲11.4千t）と大きく減少すると見込まれる。

バターも、上期生産量は30.0千t（前年比89.7%）と大きく減少する見込みであり、上期中に、26年度分カレントアクセス分輸入数量3.0千t並びに追加輸入の一部として0.9千tが売り渡される予定となっているが、26年度上期末における在庫量は19.1千t（前年度上期比▲3.9千t）と大きく減少すると見込まれる。

グラフ5：脱脂粉乳の消費量及び在庫量（四半期毎）



グラフ6：バター（Butter）の消費量及び在庫量（四半期毎）



6. 当面する課題と対応について

（1）夏季に向けた生乳生産確保の取組み

26年度上期の生乳生産は、引き続き対前年を下回ることが予測されており、特に夏季においては天候や気温の影響によって、生乳需給は予想を超える逼迫の可能性もある。

こうしたことから、酪農乳業関係者は引き続き生乳生産動向を注視するとともに、暑熱対策や飼養管理対策の徹底等により、生乳生産量の低下を最小限に留める対策を講じていくことが必要である。

なお、国の施策等を活用しながら、生産現場において現在実施されている生産基盤対策等の効果によって、本予測以上の生産も期待される。

（2）的確な需給調整対応の実施

都府県で学校給食用牛乳の供給が再開される9月は飲用の最需要期となっている。これを迎えるにあたって、酪農乳業関係者は、情報共有を通じた需給状況の把握とともに、広域生乳を含めた適切な需給調整に努め、併せて生乳生産の減少が続くと見込まれる需給実態について流通・小売業界に理解を強く求めていく必要がある。

（3）特定乳製品安定供給への取組み

特定乳製品（脱脂粉乳・バター）在庫は、昨年6月以降段階的な減少基調にあったことから、本年5月、国による脱脂粉乳のカレント輸入並びにバターの追加輸入が決定されたところである。

国及び酪農乳業関係者は、今後の生乳生産や乳製品市場の情報共有、市場全体を俯瞰した計画的配乳等に取り組むとともに、状況の推移に注視しつつ、必要に応じ、迅速な対策を講じる必要がある。